

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	葛西いろどり保育園
施設所在地	江戸川区東葛西5-8-2

1. 活動のテーマ

<テーマ>

知る・調べる

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

戸外活動で自然や虫への興味が膨らみ、もっと知りたい調べたい気持ちを表現するようになった。

2. 活動スケジュール

子ども達と選本を行い、購入。調べたい事や物を話し合い図鑑で調べたものを探しに散歩に出かけ見つけられたら園に戻り再び図鑑を確認。年度末にはわたしのぼくの調べたものを発表。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

園内の共有部分に「いろどり図書館」を設置。調べて記録ができるように自由用紙を用意。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

戸外活動で興味があるもの知りたい物を見つけ発表、子どもたちが図鑑を選本。さらに戸外活動を行い調べて行き、戻り復習。知らないものを発見したら図鑑で調べる。記録する。年度末に発表。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

今までは保育者に聞くことしかできなかった子どもたちが、自ら調べさらに知りたい！分かった！を深めて行っていた。知ることができた内容については、友だちに教えてあげ一緒に図鑑を見たり発見する姿が多く見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めから興味があった事柄とそうでなかった事柄、特に興味がなかった子でも図鑑があることで少し見てみよう・楽しそうから始まり、気づけば一人一人が「〇〇博士」になっていた。保育者が教えるのではなく、保育者が教えてもらう側になっていた。子どもたちの可能性に改めて気づくことができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	葛西いろどり保育園
施設所在地	江戸川区東葛西5-8-2

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ことば

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

絵本や図鑑を読むなかで、アルファベットに興味を持ち色々な国があることを知る。外国籍の友だちもいて色々な日本語以外の言葉がある事にも気づく。講師・保育者で年間計画をたて、探求心を更に高めていった。

2. 活動スケジュール

ねらいの設定を行い、週に一度1歳児～3歳児クラス20分・4歳児クラス25分・5歳児クラス40分のプログラムを実施。

別紙あり。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

普段過ごす保育室でリラックスして行う。年長児には教材、他年齢クラスではシールやカード・塗り絵・音楽を用意。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

季節などのテーマに沿って、年間カリキュラムを実施。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

個々で取り組む色塗りなどは集中して、終わったら見せ合う姿があり、体を動かす内容では手を繋いだり並んだり、笑顔で嬉しそうに顔を合わせていた。先週取り組んだ内容を覚えていて、「〇〇歌わないの？」や「〇〇やりたい！」と積極的な姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

未満児クラスは継続的に行うことで、興味が湧いて積極的に参加する姿があった。幼児クラスは初めから興味を持って参加していたので読み書きなどできることが増えて、子どもたちがさらに元気に参加していてこちらも一緒に楽しく取り組むことで盛り上がり方が更に高まった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	葛西いろどり保育園
施設所在地	江戸川区東葛西5-8-2

1. 活動のテーマ

<テーマ>

体

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日頃から、体を動かすことが大好きな子どもたちは、追いかけて逃げるには？椅子取りゲームで最後まで残るには、など体について考えることが多かったため、日々の運動遊びから体操教室まで、体作りを更に深めていった。

2. 活動スケジュール

子どもたちと体について会議を行い「もっと速く走りたい！」「鉄棒が上手になりたい」という意見が多く、保育者とい講師で会議をしてカリキュラムを整える。体操教室を行った後は、子どもたちと振り返りをし良かったこと出来るようになったこと、難しかったことを年度末に映像で活動を観て全体で発表を行う。(3月中旬)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

園庭がないため、2階保育室のパーテーションを広げて大きなホールにしてボール・鉄棒・マット・三角コーン・跳び箱を用意。講師は全体を、保育者は場面によって個々の傍につき体操を行った。映像での振り返りにプロジェクター・発表用にマイク付きスピーカーを用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

準備運動・ちびボールキャッチ・マット運動・キャッチボール・跳び箱・鬼ごっこ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

チーム分けではしっかりと話しを聞き、自ら考えて動く・動こうとする姿があった。全体的にボール運動が充実していたようで、友だちを応援したりどうやったらキャッチできるのかをよく考えることが増えていき、次に向けての目標を子どもたち自身が考え実践できていた。できなくて悔しがる姿もあったがそこで終わらずに挑戦することができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

継続して行うことで、目に見えて子どもたちの動きが良くなり顔つきも自信がついてきているのが分かりました。物的環境だけではなく、保育者の声掛けひとつで子どもたちが自ら考え自信を持って取り組めることにも気づけました。基礎から体作りをすることで、日々の怪我が明らかに減ってきました。